



園だより

令和7年11月古川保育園

日中のぽかぽかしたお日さまがより暖かく感じられる程の、朝晩の冷え込み。晩秋の気配が深まる季節となりました。

3・4・5歳児クラスのこどもたちは秋空カーニバルを経験し、クラスの絆がさらに深まったように感じます。今はなかよし発表会に向けて劇遊びを楽しんでいるようです。0・1・2歳児クラスのこどもたちも、年上の子の姿を見ていろいろな刺激をもらい、日々の遊びに取り入れて楽しんでいます。



- 6日(木) 園医健診(3歳児クラス)
にこにこ劇場(0・1・2歳児クラス)
ひまわり劇場(3・4・5歳児クラス)
会食
- 12日(水) 3歳児遠足
13日(木) 4歳児遠足
18日(火) 5歳児保育まつり

* 3歳児遠足、4歳児遠足、保育まつりの詳細については、各クラスから配信のお知らせをご参照ください。



12/13(土) になかよし発表会
(3・4・5歳児クラス)を予定しています。保護者参加行事となります。詳細につきましては後日お知らせします。

今月のコラム

2歳児のお友達と3階テラスで遊んでいた時のことです。

「あの赤いのなぁに？」と園庭の隅を指さし聞かれました。見るとらいおん組のこどもたちがスズメ除けに作った「かかし」でした。そこで「鳥や動物さんから稲やお野菜を守ってくれているんだよ」と説明しました。2歳児には少し難しいかな？と思っていると「えっ、守ってくれるの?」「〇〇ちゃん(自分のこと)も?」「うん」と答えると「先生も?」「ママも?」「パパも?」と矢継ぎ早に質問され、「そうだよ。守ってくれているよ」と答えると「やったー!!」と言って走って行ってしまいました。かかしが立っていて、いつもと違う光景に一瞬不安を抱いたようですが、保育者と話し、不安が解消させるだけでなく更なる安心に変わったようです。家庭や保育園が安心な場だからこそだと感じました。

今の世界情勢で、安心して生活できないこどもたちも多くいる中で、嬉しいできごとでした。これからも古川保育園がこどもたちにとって安心できる場であり続けたいと痛感しました。

ちなみにかかしは…というと、時々スズメがとまっていて、これまたスズメにとって安心できる場所になってしまっているようでした。

(フリー保育士 K)



イラスト出典：メイト



11月20日は

「かわさき子どもの権利の日」です！

★川崎市子どもの権利に関する条例って？

子どもが一人の人間として尊重され、自分らしく生きていくことを支えるための市と市民の約束です。安心して生活ができて、困ったときは助けてもらえて、様々な場に参加できることを目指しています。

★子どもの権利って？

- ① 安心して生きる権利
- ② ありのままの自分でいる権利
- ③ 自分を守り、守られる権利
- ④ 自分を豊かにし、力づけられる権利
- ⑤ 自分で決める権利
- ⑥ 参加する権利
- ⑦ 個別の必要に応じて支援を受ける権利

すべての子どもがこの権利を持っています

★子どもたちからおとなへのメッセージ

まず、おとなが幸せにいてください。おとなが幸せじゃないのに子どもだけ幸せにはなれません。おとなが幸せでないと、子どもに虐待とか体罰とかが起きます。

条例に「子どもは愛情と理解をもって育まれる」とありますが、まず、家庭や学校、地域の中で、おとなが幸せでいてほしいのです。

子どもはそういう中で、安心して生きることが出来ます。

＜平成 13 年（2001 年）3 月

子どもの権利条例子ども委員会のまとめ＞

川崎市子どもの権利に関する条例パンフレット

より抜粋

保育園でも日ごろから、こどもの人権について考えながら保育をすすめています。そんな保育の中の「人権」について一つエピソードを紹介したいと思います。

ある日の 2 歳児クラスでの出来事です。

ミニカーが好きな A ちゃん、B くん、C くんは、この日もおやつ後に真先にミニカーのもとへ行きました。こどもたちの中で人気のミニカーがあるようで、3 人ともそのミニカーを使いたかったようですが、A ちゃんが先にゲットし、それを見て B くんが泣き出してしまいました。担任が仲介しようとしたところで、C くんが「B くんは A ちゃんのつぎに使えばいいじゃん！ほくのこれ使ってもいいよ」と、声を掛け、自分のお気に入りのミニカーを差し出していました。B くんは少し考えたのち、C くんからミニカーを受け取り遊び始めました。

C くんはどこか満足気な顔でほかのミニカーを出し、3 人で仲良く道路を走らせて遊んでいました。少しすると満足した A ちゃんが B くんミニカーを貸している姿もありました。

このやりとりになるまでは、ミニカーを取り合ったり、なかなか気持ちを切り替えられず泣いていたり、担任が仲介しないと解決できないことが多かったです。しかし、やり取りを重ねていく中で、相手の気持ちを考えたり、気持ちに折り合いをつけたりと、こどもたちなりに解決方法を学んでいったようです。

こども一人ひとりの気持ちを受け止め、尊重していくことの難しさを感じながらも、日々向き合っていたことが間違っていなかったのだと嬉しくなったとともに、これからのこどもたちの成長がより楽しみになった、そんな保育の一場面でした。